

I. 病院の概要

2024年4月～2025年3月

1. 概 要

■名称

医療生協さいたま生活協同組合
埼玉協同病院

■所在地

埼玉県川口市木曽呂1317 (〒333-0831)
TEL: 0570-00-4771
FAX: 048-296-7182
ホームページ: <https://kyoudou-hp.com/>

■開設年月日 1978年4月1日

■2024年度実績

外来延患者数	104,947人
1日平均外来患者数	376人
救急搬送受入れ件数	4,250件
新入院患者数	7,861人
在院患者延数	103,114人
平均在院日数 (一般)	10.5日
病床稼働率 (一般)	76.7%
紹介患者率	44.5%
逆紹介患者率	32.9%

■標榜科

内科	精神科
循環器内科	放射線科
呼吸器内科	麻酔科
消化器内科	リハビリテーション科
緩和ケア内科	病理診断科
神経内科	リウマチ膠原病科
小児科	臨床検査科
外科	腎臓内科
呼吸器外科	血液内科
消化器外科	糖尿病内科
乳腺外科	救急科
整形外科	泌尿器科 (人工透析)
脳神経外科	緩和ケア外科
産婦人科	◇専門外来
泌尿器科	被ばく相談外来
皮膚科	禁煙外来
眼科	在宅医療
耳鼻咽喉科	

■病床数 377床

病棟	病床数	診療科等
東2	52	整形外科
東3	32	産婦人科、乳腺外科
東4	58	消化器内科、呼吸器内科、小児科
東5	20	緩和ケア
南2	58	整形外科、一般内科
南3	57	外科、一般内科
南4	42	循環器内科、糖尿病内科、腎臓内科、総合内科
HCU	8	
南5	50	回復期リハビリテーション

■職員数 991名

職種	常勤・嘱託	非常勤
医師	84	124
初期研修医	15	
看護師	216	46
助産師	25	6
保健師	33	2
准看護師		6
看護サポート	8	36
薬剤師	32	4
臨床検査技師	24	3
理学療法士	40	1
作業療法士	18	
言語聴覚士	7	
歯科衛生士	2	
診療放射線技師	25	
臨床工学技士	18	
管理栄養士	17	
調理師	11	4
調理員		14
介護福祉士	7	
介護職		1
事務職	66	75
保育士	2	10
助手・運転手・他		9
計	650	341

(2025年3月末日現在)

■名称

医療生協さいたま生活協同組合
ふれあい生協病院

■病床数 54床

病棟	病床数	診療科等
北2	54	地域包括ケア病棟

■所在地

埼玉県川口市木曽呂1302-1 (〒333-0831)
TEL : 0570-00-4771
FAX : 048-296-7182
ホームページ : <https://kyoudou-hp.com/>

■職員数 214名

職種	常勤・嘱託	非常勤
医師	4	27
看護師	23	26
保健師	13	1
准看護師	1	7
看護サポート	4	4
薬剤師	2	
臨床検査技師	9	2
理学療法士	3	
作業療法士	3	
言語聴覚士	1	
視能訓練士	2	1
診療放射線技師	5	1
管理栄養士	1	3
事務総合職	31	39
助手		1
計	102	112

(2025年3月末日現在)

■2024年度実績

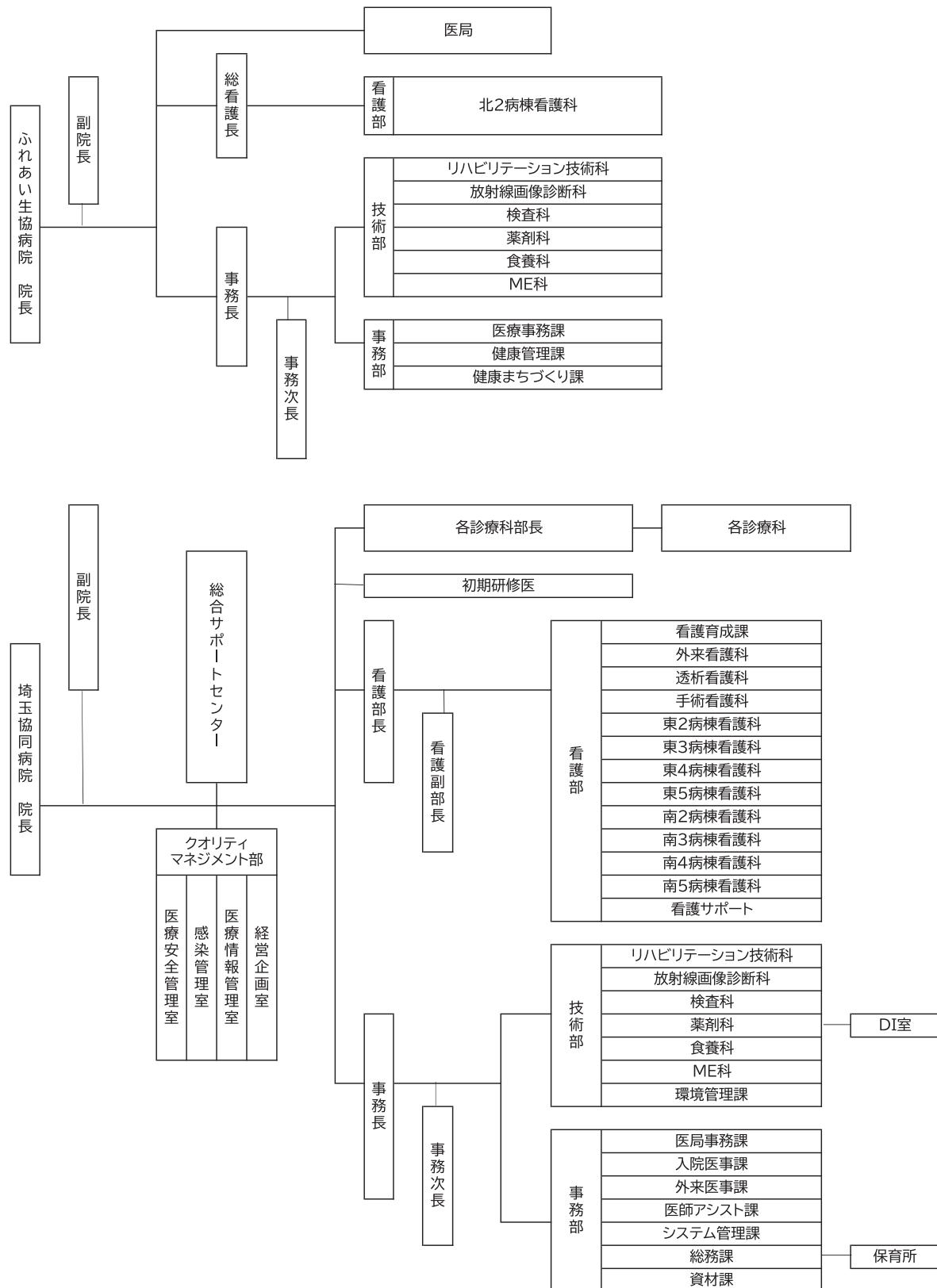
外来延患者数	132,523人
1日平均外来患者数	475人
新入院患者数	746人
在院患者延数	17,869人
平均在院日数（地ケア）	24.1日
病床稼働率（地ケア）	94.4%

■標榜科

内科
循環器内科
糖尿病内科
呼吸器内科
消化器内科
脳神経内科
小児科
外科
呼吸器外科
消化器外科
泌尿器科
皮膚科
眼科
耳鼻咽喉科

2. 組織機構図

2024年度 埼玉協同病院・ふれあい生協病院 組織機構図



3. 2024年度病院スコアカード

2024/5/15

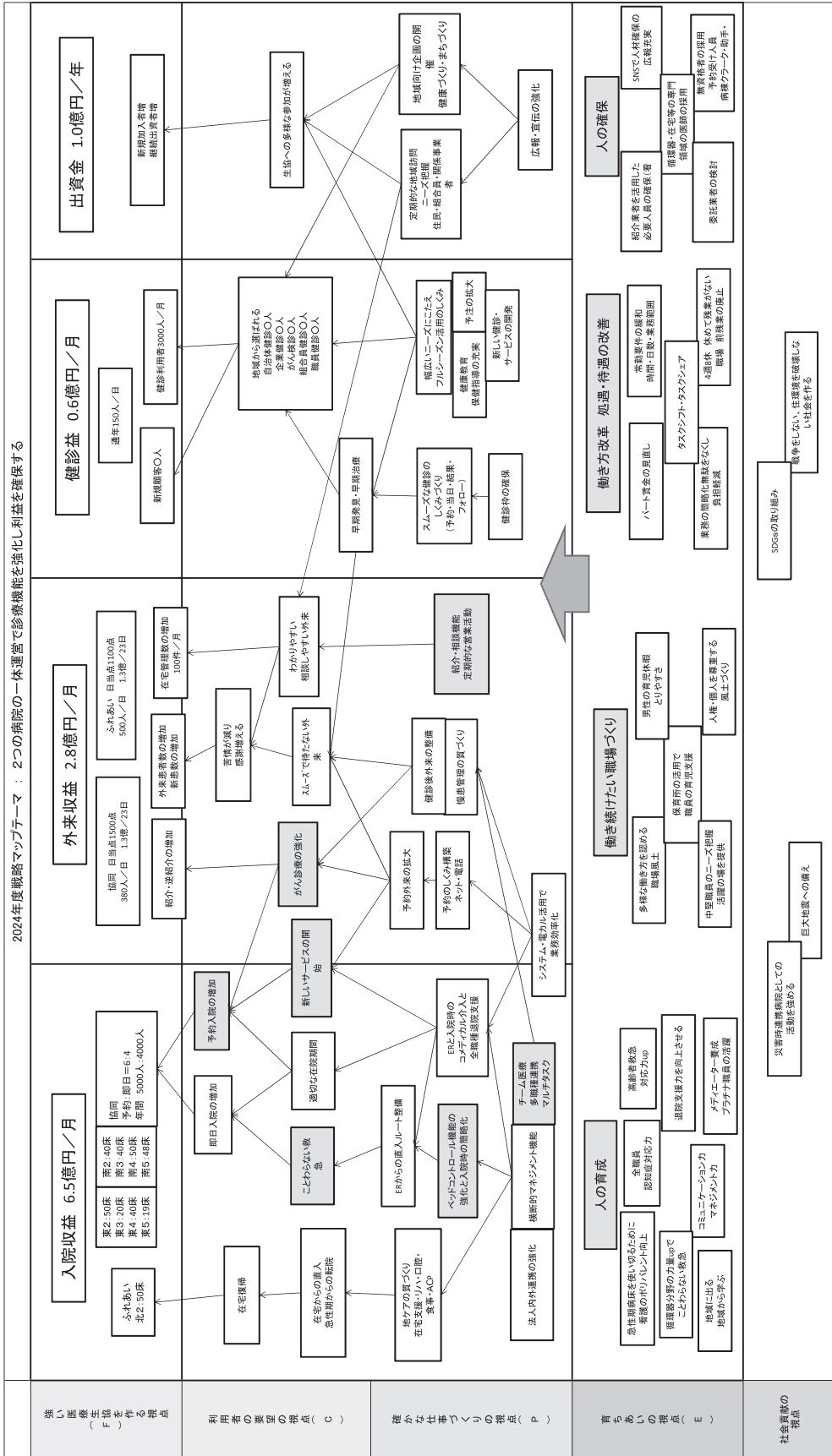
2024年度埼玉協同病院 & ふれあい生病協病院 戦略マップ

人を人として尊重し、地域包括ケア時代に輝く病院群を目指す

【埼玉協同病院】
①救急医療・がん医療を軸に急性期病院としての医療機能と質を高める。
②ふれあい生協病院としての機能を確立・質を高める。
③在宅療養支援病院としての機能を確立・質を高める。

ミッション	<p>【埼玉協同病院】 ①救急医療・がん医療を軸に急性期病院としての医療機能と質を高める。 ②在宅療養支援病院としての機能を確立し質を高める。 ③総合性と専門性を備えた医療専門職が集い、健診の社会的要因(SDH)の視点を日常診療にいかした組織運営を行う。 ④ヘルスリテラシーを高める活動とともに、健康の社会的活動が発展する組織運営を行う。 ⑤2つの病院の診療連携機能を高め、各医療チームの活動が発展する組織運営を行う。</p>
-------	--

2024年度戦略アライアンス：22の病院の一体運営で診療機能を強化、利益を確保する



4. 2024年度 病院活動報告

事務長 貞弘朱美

2024年度はD館リニューアル工事の終了に伴う部門の移転、そして2病院体制での運営基盤強化に向けた様々な取り組みが展開されました。

1. 組織と人事（入職・教育・体制）

(1) 新入職員の入職と歓迎

2024年度は法人全体で医師8名を含む16職種92名が入職しました。そのうち埼玉協同病院・ふれあい生協病院には、医師8名を含む14職種67名の新入職員を迎えました。



4月4日に2つの病院合同で入職式が行われ、先輩職員による手作りの横断幕で新入職員を迎えました。

また7月には耳鼻咽喉科に久壽米木駿医師が着任し、常勤医師2名体制となり、外来枠の増加や手術の幅が広がりました。

(2) 教育・研修の実施

部下へのフィードバックや報告・連絡・相談のスキルアップを目的とした部門責任者マネジメントスキルアップ研修を6回シリーズで開催しました。部門責任者としてのスタンスや姿勢、部下を育てるためのスキルやテクニックを学びました。受講後アンケートでは、職場でもプライベートでもすぐに実践できる内容と受講者には好評でした。毎回グループワークを中心に研修を組み立てることにより、参加者同士で悩みを相談しあう関係ができ、参加者同士で指摘したり励ましたりする行動もうまれ、現場で困っている課題について一緒に考える機会になりました。

多職種連携に必要なスキルを学ぶIPW（インター・プロフェッショナル・ワーク）研修は、埼玉県立大学の協力を得て10月から始まり、2月に修了しました。

救急対応として、ICLS講習会（11月）や日本内科学

会認定内科救急・ICLS講習会（JMECC）（1月）を開催し、初期研修医や看護師などが受講しました。

中途入職者研修は年2回実施し43名が参加しました。病院の成り立ち、理念、医療安全、感染対策などを学びました。

(3) 医療職になりたい学生への啓発活動

10月9日に越谷北高等学校で看護師・臨床検査技師など6名による医療職体験会が開催され、進路を考えるのに役立ったとの感想がありました。

11月14日に高校生を対象とした「看護職・医療技術職・社会福祉士・事務総合職の見学体験会」を実施し、16名の参加があり、病院専門職の仕事を知ってもらう機会となりました。

2. 施設リニューアルと機能再編

(1) 病棟・部門の移転と名称変更

2023年6月から始まった旧D館リニューアル工事は2024年3月末で終了し、南棟（旧D館）への引っ越しを想定した患者移送リハーサルを4月14日に実施しました。

4月27日（土）・28日（日）に、リニューアルした南棟の病棟（旧D館）と各部門（薬剤科、資材課、病理室、医事課等）の引っ越しを行い、5月1日にはC館に残っていた4病棟の引っ越しを行い、8病棟全てが完成しました。

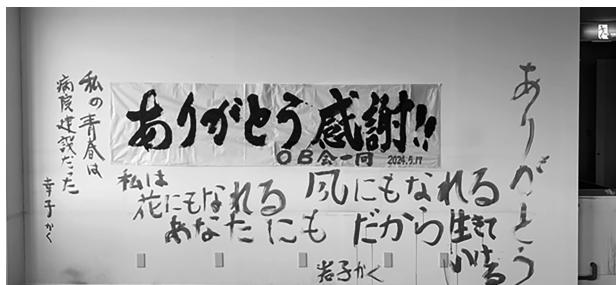
この引っ越しを機に、建物の名称がD館は南棟に名称変更し、病棟機能の編成も変更しました。

5月8日にはB館1階にあったER（救急室・処置室）が東棟1階の北側入口に移転し、2回目の大きな引っ越しが終了しました。

12月9日（月）には、旧レストラン虹の森のエリアに透析室が移転となり、透析機器を更新し、部門の名称も変更し新たに「血液浄化センター」としてオープンしました。

(2) 旧建物の解体と建設工事

1978年の開院以来当院のシンボルとして立っていた病院名の赤いネオンサインがあるB館と1996年増築のC館は、2024年6月から取り壊しが始まりました。5月下旬には「さよならB館お別れ見学会」を開催し、多くの職員OBの方々が、最後に建物に足を踏み入れ、思い思いのメッセージを残していました。



(*職員 OB の方からの壁画メッセージ)

(3) 施設の修繕と整備

竣工1年を迎え、大小の不具合に対する是正処置をおこないました。開院以来課題となっていた北棟大會議室の音の反響に関する不具合は、7月より是正工事を行い改善しました。またふれあい生協病院の駐車場出入り口の縁石幅を変更し、道路からの車の出入りがしやすくなるような改善も行いました。

3. 経営課題への取り組み

2023年度は建設に伴い大きな赤字決算となりました。建設による影響を早急に払拭し、経営改善を図る事が必須となっています。

2つの病院の機能連携による患者の受け入れ拡大や、救急車の受入れ増などの改善をはかりました。薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士などはERに常駐し、多職種での関わりをスタートさせた年となりました。

また経営改善を図るために、10月から経営対策会議をはじめました。収益予算を達成するため入院・外来の患者数を増やす取り組みや、次年度以降の病院機能の在り方について法人本部を交え検討をしました。総合入院体制加算の算定にむけた準備を段階的にすすめていくこととし、翌年3月から選定療養費徴収を開始することを決めました。12月から職員への説明を始め、支部長会議な

どで地域組合員への説明を行いました。初診の患者負担が大きくならないよう選定療養費は500円からスタートすることとしました。選定療養費の徴収開始と同時に、埼玉協同病院の外来診療科は完全予約制としました。

2024年度決算は2病院合計で事業収益118億4,500万円、事業費用128億6,290万円となり、14億6,300万円の赤字決算となりました。剩余予算より1億3,450万円ほど圧縮できたものの、建設・リニューアル後の施設設備をうまく活用しきれなかったことが大きな要因です。またB館、C館の解体に伴い12億円を越える特別損失を計上しました。

4. 地域活動・平和活動

(1) 第40回地域医療懇談会の開催

12月5日に4年ぶりに集合形式で地域医療懇談会を開催しました。今回は医師31名を含む50名が参加し、肥田内科部長より『内科の展望～埼玉協同病院グランドオープンに向けて～』と堤内耳鼻咽喉科部長先生より『当科における耳科手術～外来鼓膜形成術を中心に～』の2つの講演を行い、その後懇親会を開催しました。

(2) 2024年度に開催したイベント

10月27日にさいたまスーパーアリーナで健康フェスタ



を開催しました。多くの職員が医療職体験ブースや健康づくりコーナーなどを出展し、来場者の方々と一緒にイベントを楽しみました。

11月23日にふれあい生協病院と病院駐車場で「ふれあい健康まつり」を開催し2,000名が来場しました。模擬店やフリーマーケット、ギャラリー、ステージ、キッチンカーなど楽しい催しと飲食も用意し、大人も子どもも1日楽しみました。当日は加入6件、増資121件、出資金47万円のご協力を頂くことができました。

12月21日には第1回こども食堂を開催しました。毎月第3土曜日に継続的に開催することが決まりました。

2月20日にふれあい生協病院 忍院長を講師に市民公開講座『大腸がんってどんな病気？？』を開催し、110人の参加がありました。

(3) 平和活動

8月4日～6日に原水爆禁止世界大会（広島）へ6名の職員を派遣しました。その後、院内で行われた世界大会の報告会で参加した職員が「被爆者の平均年齢が85歳に達した今、平和のバトンを託された私たちはこれから二度と同じ過ちを繰り返さないためにも、戦争を起こさせない取り組みをしなければなりません。他人事とは思わず、おかしいと思ったことにはおかしいと言う、周りの目を恐れずにきちんと自分の意志で行動したい」と決意を語ってくれました。また今年度も戦争体験聴き取り活動を行い、報告会を開催しました。

5. 組合員・地域住民との活動

(1) 組織3課題への取り組み

2024年度の組織3課題の結果は、加入3,213人（計画比84.6%）、増資件数10,830件（計画比88.5%）、出資金80,709千円（計画比84.1%）となりました。残念ながら目標には到達できませんでしたが、9月24日～10月5日の「なかま増やし期間」に合わせ、若手職員を対象とした医療生協についての学習会と実践練習が行われ、10日間で加入128件、140万円の増資がありました。



8月のふれあい生協病院開院1周年記念キャンペーンでは、生協コーナーで記念増資が訴えられ1日で30万円



を超える増資がありました。1周年記念イベントとして、各部門によるデコレーション、記念給食、健康チェック、ハンドベル演奏などが実施されました。

(2) 川口市みんななかまバスの乗り入れについて

バス停設置に向けた申し入れについて、川口市都市交通対策室の方との懇談を3月に行いました。2025年夏ごろを目指してルート決定前に再度意見交換するという回答がありました。

6. 2025年度に向けて

工事着工からまる3年が経過し、前年度の引越しや電子カルテの更新を乗り越えて、院内の運営は職員はじめ患者様も建物や病院の運用に慣れてきた1年となりました。

しかし経営的には非常に苦しい状況は変わりませんが、改めてこの地域に存在する2病院の役割をしっかりとアピールして、なくてはならない病院としてさらに磨きをかけていくことが必要です。

5. 主要行事

■2024年

< 4月 >

1日	新入職員 入職式・法人研修 ~ 3日
4日	新入職員 病院オリエンテーション
15日	南棟引き渡し
27日	フードパントリー
26日	南棟引越し ~ 28日

< 5月 >

1日	南棟 入院患者移送
8日	東棟 ER引越し
17日	B館さよならお別れ見学会 ~ 18日
25日	フードパントリー

< 6月 >

7日	既卒入職者研修
13日	地域連携懇談会
19日	日本救急医学会認定 ICLS 講習会
22日	フードパントリー

< 7月 >

1日	第1回マネジメントレビュー
16日	川口北高校教職員向け BLS 講習会
27日	フードパントリー

< 8月 >

4日	原水禁世界大会代表派遣~6日
14日	ふれあい生協病院開院1周年記念
24日	フードパントリー

< 9月 >

10日	感染対策地域合同カンファレンス
19日	原水爆禁止世界大会報告会
28日	フードパントリー
30日	東浦和駅前マイナ保険証署名行動

< 10月 >

8日	ふれあい生協病院開院新規個別指導
9日	越谷北高校医療職体験会
10日	院内IPW研修
26日	フードパントリー
30日	第2回マネジメントレビュー
31日	看護再就職技術講習会

< 11月 >

9日	日本救急医学会認定 ICLS 講習会
14日	高校生 医師・看護職・技術職 体験
20日	中途入職者研修会
23日	ふれあい健康まつり

< 12月 >

5日	地域医療懇談会
9日	血液浄化センターオープン
13日	第16回建設委員会総会
14日	県連学術運動交流集会
22日	こども食堂・フードパントリー

■2025年

< 1月 >

6日	仕事はじめ全体朝会
11日	日本内科学会認定内科救急・ICLS 講習会
17日	院内医療活動交流集会
18日	こども食堂
25日	フードパントリー
30日	ボランティア学校

< 2月 >

1日	院内トリアージ機上訓練
15日	こども食堂
20日	市民公開講座
22日	フードパントリー

< 3月 >

4日	第3回マネジメントレビュー
15日	こども食堂
16日	市民公開講座
21日	第39回地域医療懇談会
22日	初期研修医 研修修了報告会
22日	フードパントリー

6. 施設基準

1. 埼玉協同病院

■基本診療の施設基準

一般病棟入院基本料

急性期一般入院料 1

ハイケアユニット入院医療管理料 1

早期離床・リハビリテーション加算

早期栄養介入管理加算

回復期リハビリテーション病棟入院料 3

休日リハビリテーション提供体制加算

緩和ケア病棟入院料 1

救急医療管理加算

診療録管理体制加算 1

医師事務作業補助体制加算 1 15対 1

急性期看護補助体制加算25対 1 5割以上

夜間急性期看護補助加算 100対 1

夜間看護体制加算

看護補助体制充実加算 1

看護職員夜間配置加算 16対 1 配置加算 1

療養環境加算

重傷者等療養環境特別加算

緩和ケア診療加算

リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算

栄養サポートチーム加算

医療安全対策加算 1

医療安全対策地域連携加算 1

感染対策向上加算 1

指導強化加算

患者サポート体制充実加算

重症患者初期支援充実加算

報告書管理体制加算

褥瘡ハイリスク患者ケア加算

ハイリスク妊娠管理加算

ハイリスク分娩管理加算

呼吸器ケアチーム加算

術後疼痛管理チーム加算

後発医薬品使用体制加算 1

バイオ後続品使用体制加算

病棟薬剤業務実施加算 1

データ提出加算 2

入退院支援加算 1

総合機能評価加算

入院時支援加算

認知症ケア加算 1

せん妄ハイリスク患者ケア加算

地域医療体制確保加算

看護処遇改善評価料51

外来・在宅ベースアップ評価料 (1)

入院ベースアップ評価料63

入院時食事療養 (I)・入院時生活療養 (I)

■特掲診療の施設基準

心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に規定する遠隔モニタリング加算

がん性疼痛緩和指導管理料

がん患者指導管理料イ

がん患者指導管理料ロ

がん患者指導管理料ハ

がん患者指導管理料ニ

外来緩和ケア管理料

乳腺炎重症化予防ケア・指導料

婦人科特定疾患治療管理料

一般不妊治療管理料

院内トリアージ実施料

夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に規定する救急搬送看護体制加算 1

外来腫瘍化学療法診療料 1

外来腫瘍化学療法診療料の注 8 に規定する連携充実加算

外来腫瘍化学療法診療料の注 9 に規定するがん薬物療法体制充実加算

療養・就労両立支援指導料の注 3 に規定する相談支援加算

開放型病院共同指導料

がん治療連携指導料

ハイリスク妊娠産婦連携指導料 1

ハイリスク妊娠産婦連携指導料 2

肝炎インターフェロン治療計画料

薬剤管理指導料

医療機器安全管理料 1

在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注 2 に規定する

遠隔モニタリング加算

遺伝学的検査

BRCA1/2 遺伝子検査

HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出 (簡易ジェノタイ

プ判定)

検体検査管理加算 (I)

検体検査管理加算 (II)

時間内歩行試験およびシャトルウォーキングテスト	胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
CT 透視下気管支鏡検査加算	バルーン閉塞下逆行性経静脈の塞栓術
画像診断管理料 1	腹腔鏡下胆囊悪性腫瘍手術（胆囊床切除を伴うもの）
画像診断管理料 2	胆管悪性腫瘍手術（脾頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
遠隔画像診断	体外衝撃波胆石破碎術
CT撮影及びMRI撮影	腹腔鏡下肝切除術
冠動脈 CT撮影加算	体外衝撃波膵石破碎術
心臓 MRI撮影加算	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍摘出術
乳房 MRI撮影加算	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
外来化学療法加算 1	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
無菌製剤処理料	胃瘻造設術
脳血管疾患等リハビリテーション料（I）	輸血管理料 II
初期加算	輸血適正使用加算
急性期リハビリテーション加算	貯血式自己輸血管理体制加算
運動器リハビリテーション料（I）	人工肛門、人工膀胱造設術前処置加算
初期加算	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
急性期リハビリテーション加算	麻酔管理料 I
障害者（児）リハビリテーション料	麻酔管理料 II
がん患者リハビリテーション料	周術期薬剤管理加算
集団コミュニケーション療法料	病理診断管理加算 1
精神科ショートケア「小規模なもの」	
精神科デイケア「小規模なもの」	
人工腎臓（慢性維持透析 1）	
導入期加算 1	
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	
透析液水質確保加算	
慢性維持透析濾過加算	
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	
骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術	
に限る。）	
人工関節置換術（手術支援装置を用いるもの）	
椎間板内酵素注入療法	
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	
乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ	
節生検（単独）	
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	
大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）	
食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下	

2. ふれあい生協病院

■基本診療の施設基準

地域包括ケア病棟入院料 1	
機能強化加算	
診療録管理体制加算 2	
医師事務作業補助体制加算 2	
医療安全対策加算 2	
医療安全対策地域連携加算 2	
患者サポート体制充実加算	
データ提出加算 2	
入退院支援加算 1	
入院時支援加算	
総合機能評価加算（告示注 7 入院時支援加算）	
認知症ケア加算 3	
外来・在宅ベースアップ評価料（1）	
入院時食事療養（I）・入院時生活療養（I）	

■特掲診療の施設基準

糖尿病合併症管理料	
がん性疼痛緩和指導管理料	
糖尿病透析予防指導管理料	

ニコチン依存症管理料
肝炎インターフェロン治療計画料
在宅療養支援病院(別添1の「第14の2」の1の(3)に規定する)
在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料
在宅がん医療総合診療料
在宅酸素療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
小児食物アレルギー負荷検査
遠隔画像診断
CT撮影及びMRI撮影
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
障害者(児)リハビリテーション料

7. 教育研修施設等

■基本領域

基幹施設: 内科、総合診療
関連・連携施設: 小児科、皮膚科、外科、整形外科、産婦人科、病理、リハビリテーション科、麻酔科

■サブスペシャルティ領域

日本糖尿病学会認定教育施設 (2000.11.27)
日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 (2000.12.1)
日本臨床細胞学会教育研修施設 (2003.9.30)
日本消化器内視鏡学会指導施設 (2006.12.1)
呼吸器外科専門医制度関連施設 (2010.4.1)
日本がん治療認定医機構認定研修施設 (2010.11.1)
日本透析医学会専門医制度教育関連施設 (2010.11.26)
日本在宅医学会認定専門医制度研修施設 (2011.4.1)
日本乳癌学会認定医専門医制度関連施設 (2013.1.1)
日本消化器外科学会専門医制度関連施設 (2013.4.1)
日本胆道学会指導施設 (2014.4.1)
日本肝臓学会専門医制度関連施設 (2014.4.1)
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 (2015.4.1)
日本消化器病学会認定施設 (2016.1.1)
日本手外科学会関連施設 (2016.7.1)
日本呼吸器学会認定施設 (2016.12.9)
日本循環器学会認定循環器専門医関連施設 (2017.4.1)
日本脳卒中学会研修教育病院 (2018.1.1)
日本膀胱学会認定指導施設 (2020.1.1)

新家庭医療後期研修プログラム認定 (2020.4.1)
日本緩和医療学会認定研修施設 (2021.10.1)
日本ペインクリニック学会指定研修施設 (2022.4.1)

※ (認定年月日)